

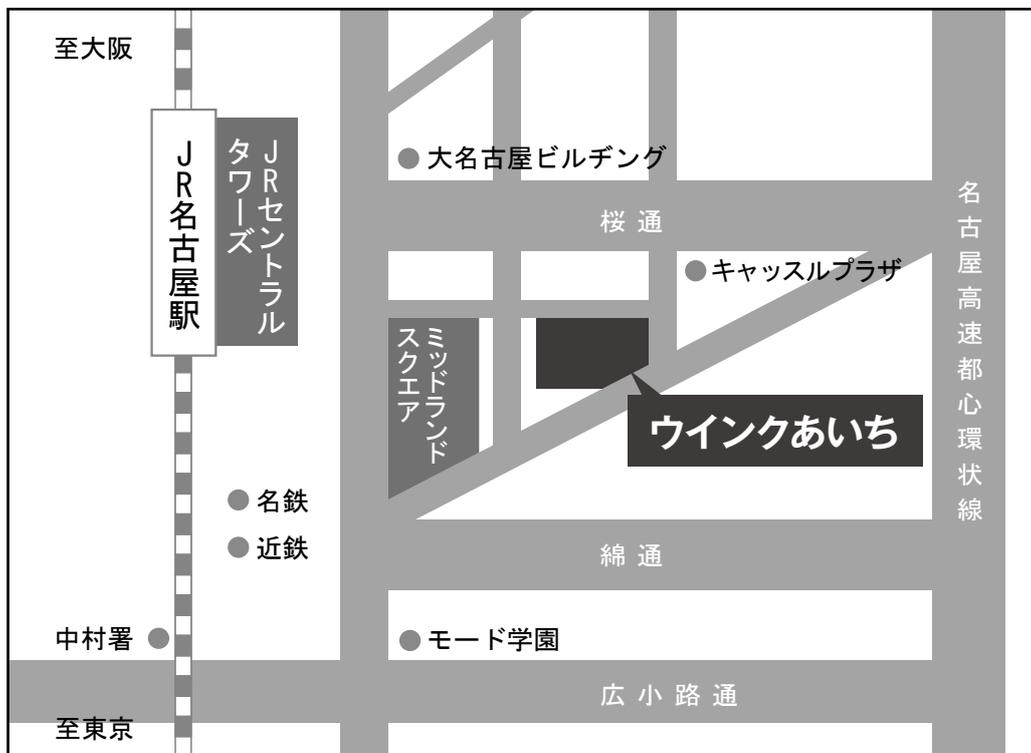


第39回 東海スポーツ傷害研究会

日時：2017年2月18日(土) 14:00～

場所：ウインクあいち 2F「大ホール」
〒450-0002 名古屋市中村区名駅四丁目4番38号
TEL. 052-571-6131

- JR名古屋駅桜通口からミッドランドスクエア方面 徒歩5分
- ユニモール地下街 5番出口 徒歩2分



(※駐車場はご用意してございません)

・発表時間：症例報告は4分、その他は5分

参加費 2,000 円

日整会専門医・認定医(スポーツ)及び研修医単位取得の場合は、別途1,000円を申し受けます。
日医健康スポーツ医制度再研修会の場合は無料です。
日医生涯教育研修単位取得の場合は無料です。

当番幹事 **小山博史** (浜松医科大学 整形外科学教室 診療助教)

プログラム

挨拶 (13:55 ~ 14:00) 当番幹事：小山博史

セッション I (14:00 ~ 14:40) 座長：後藤英之 (名古屋市立大学 整形外科)

1. 少年野球選手の投球側上腕骨後捻角が肩関節内旋制限 (GIRD) に与える影響

高松 晃 (西尾市民病院 整形外科)

2. 三重県高校野球投手検診における過去 3 年間の報告 — アンケート調査との検討 —

中村拓也 (医療法人社団主体会主体会病院 総合リハビリテーションセンター)

3. 外側壁が欠損した上腕骨小頭離断性骨軟骨炎 (OCD) に対する肋骨肋軟骨移植術の手術成績

鈴木 拓 (藤田保健衛生大学 整形外科)

4. 中学生野球選手におけるワインドアップ時および足部接地時の骨盤アライメントと投球障害の関連

太田憲一郎 (中部大学大学院 生命健康科学研究科リハビリテーション学専攻)

5. 成長期スポーツ傷害におけるジャックナイフストレッチングの有効性

若林英希 (医療法人社団大須賀医院おおすが整形外科)

セッション II (14:40 ~ 15:30) 座長：近藤精司 (至学館大学短期大学部)

6. 自動運動の角度測定による筋タイトネス評価の妥当性の検討

宮地庸祐 (三仁会あさひ病院 リハビリテーション科)

7. 非侵襲性微細突起の皮膚刺激によるセルフケアが

大学陸上選手の自覚的な疲労に及ぼす影響

沢崎健太 (常葉大学 健康プロデュース学部)

8. 学童期における運動機能と怪我との関係性

篠原崇志 (やまだ整形外科・リハビリクリニック)

9. 柔道初心者と有段者における後ろ受身動作の2次元動作解析

島 大輔 (特定医療法人米田病院 リハビリテーション科)

10. 当院における発育期腰椎分離症の早期・超早期例に対するスポーツ復帰状況について

伊藤雅流 (特定医療法人米田病院 リハビリテーション科)

11. 現役大学ラグビー選手のバーナー症候群の後遺症と

既往歴の有無によってみられる身体的特性

杉山康太 (まつした整形外科)

休憩 (15:30 ~ 15:40)

セッションⅢ (15:40 ~ 16:15) 座長: 山路倫生 (阿由知通山路整形外科)

12. 陳旧性アキレス腱断裂および再断裂に対し

自家ハムストリング腱を用いて再腱術を施行した3例の治療経験

千賀佳幸 (鈴鹿回生病院 整形外科)

13. 遺残性 Osgood-Schlatter 病を伴う膝蓋腱・ACL 同時断裂の1例

今田貴章 (磐田市立総合病院 整形外科)

14. 高校球児に発生した足舟状骨離断性骨軟骨炎の1例

土屋篤志 (名鉄病院 関節鏡・スポーツ整形外科センター)

15. インステップキック時の足関節後方部痛に対し前方関節包の伸張性改善が効果的だった一症例

上川慎太郎 (平針かとう整形外科)

16. 高校サッカー選手の足部内反捻挫後の足部機能について

藤本哲也 (医療法人蜂友会はちや整形外科病院 リハビリテーション部)

セッションⅣ（16：15～17：05）座長：錦野匠一（浜松医科大学 整形外科）

17. Osgood-Schlatter 病（以下 OSD）を呈する患者におけるジャンプ動作の検討

林 昌輝（はなみずき整形外科スポーツクリニック リハビリテーション科）

18. 膝前十字靭帯再建術後における片脚垂直跳びテストを用いた筋力推定式の有用性

小杉 峻（やまが整形外科 リハビリテーション科）

19. 股関節肢位の違いによるジャンプ動作への影響について ～体幹運動の比較検討～

岡村幸枝（公益財団法人スポーツ医・科学研究所）

20. 体幹長軸方向への圧負荷と股関節屈曲筋力との関係

墨田智紀（医療法人承継会井戸田整形外科名駅スポーツクリニック）

21. 大腿骨寛骨臼インピンジメント患者における胸郭・腰椎可撓性や骨盤可動性

高柳勇太（浜松医科大学医学部附属病院 リハビリテーション部）

22. スポーツクリニックにおける鼠径周辺部痛の発生状況

杉山貴哉（静岡みらいスポーツ・整形外科）

総 会（17：05～17：15） 代表幹事：山賀 寛（やまが整形外科）

休憩（17：15～17：30）

特別講演Ⅰ（17：30～18：15） 座長：小山博史（浜松医科大学 整形外科）

アスリートに対する鼠径部痛／股関節痛の診断と治療

—股関節鏡手術は本当に必要か？—

山藤 崇（東京医科大学 整形外科学分野 助教）

特別講演Ⅱ（18：15～19：00） 座長：高橋正哲（十全記念病院 整形外科）

ハイパフォーマンスと傷害予防の両立

杉本龍勇（法政大学 経済学部 教授）

講演内容

1. 少年野球選手の投球側上腕骨後捻角が肩関節内旋制限 (GIRD) に与える影響

西尾市民病院 整形外科 ○高松 晃 (医師)

少年野球選手 67 名の上腕骨後捻角をエコーで計測した。投球側が対側よりも平均 9.1°後捻していた。GIRD を後捻角で補正した軟部組織性 GIRD は、傷害発生群が健常群よりも有意に高値であった。

2. 三重県高校野球投手検診における過去 3 年間の報告

—アンケート調査との検討—

医療法人社団主体会主体会病院 総合リハビリテーションセンター ○中村拓也 (理学療法士), 上田 誠, 南 圭介
河口外科 リハビリテーション科 松本光司
鈴鹿回生病院 リハビリテーション課 佐久間雅久
医療法人社団主体会主体会病院 整形外科 川村豪伸
鈴鹿回生病院 スポーツ医科センター 福田亜紀
鈴鹿回生病院 整形外科 加藤 公
三重県スポーツリハビリテーション研究会 中村拓也, 上田 誠, 松本光司, 南 圭介,
佐久間雅久

三重県内の高校野球投手を対象に、医師・理学療法士による投手検診を毎年冬のオフシーズンに実施している。今回、平成 25 年～平成 27 年の検診に参加した 139 名の結果について、考察を加えて報告する。

3. 外側壁が欠損した上腕骨小頭離断性骨軟骨炎 (OCD) に対する

肋骨助軟骨移植術の手術成績

藤田保健衛生大学 整形外科 ○鈴木 拓 (医師), 前田篤志, 長谷川正樹, 黒岩 宇, 志津香苗,
鈴木克侍, 山田治基
慶應義塾大学 整形外科 鈴木 拓, 佐藤和毅
愛光整形外科 早川克彦
名古屋スポーツクリニック 杉本勝正

外側型の上腕骨小頭 OCD6 例に対して肋骨助軟骨移植術を施行した。小頭の外側壁が欠損していても、助軟骨を用いることで良好な固定性、安定性が得られた。術後、全例疼痛は消失し、移植骨の生着も良好であった。

4. 中学生野球選手におけるwindアップ時および足部接地時の

骨盤アライメントと投球障害の関連

中部大学大学院 生命健康科学研究科リハビリテーション学専攻 ○太田憲一郎 (理学療法士), 宮下浩二,
谷 祐輔, 岡棟亮二
中部大学 生命健康科学部理学療法学科 宮下浩二
まつした整形外科 小山太郎, 岡棟亮二

投球障害の発生には骨盤アライメントの問題が関連するとされている。今回、投球中の骨盤傾斜角度を三次元動作解析し、windアップ時および足部接地時の骨盤傾斜角度と投球障害との関連性を調査した。

5. 成長期スポーツ傷害におけるジャックナイフストレッチングの有効性

医療法人社団大須賀医院おおすが整形外科 リハビリテーション科 ○若林英希(理学療法士), 安藤研介,
片山裕介, 深野裕己, 福島隆広,
神谷和希, 山崎仁嗣, 加藤壮馬,
山田享平

医療法人社団大須賀医院おおすが整形外科 大須賀友晃, 森谷裕司

今回, 成長期スポーツ傷害の患者(10歳~18歳, 中央値13歳)を対象に, ジャックナイフストレッチングを1ヶ月間施行し, 指床間距離が0cm以上と0cm未満の2群に分け, 改善率を比較したので報告する.

6. 自動運動の角度測定による筋タイトネス評価の妥当性の検討

三仁会あさひ病院 リハビリテーション科 ○宮地庸祐(理学療法士), 古田国大
愛知医科大学 整形外科 神谷光広
三仁会あさひ病院 整形外科 花村俊太郎

スポーツ障害の要因である筋タイトネスの既存の評価法は医療従事者でさえ検者間差が大きい. スマートフォンを使った自動運動の角度測定による筋タイトネス評価法を考案し, 既存の評価方法と比較し妥当性を検討した.

7. 非侵襲性微細突起の皮膚刺激によるセルフケアが 大学陸上選手の自覚的な疲労に及ぼす影響

常葉大学 健康プロデュース学部 ○沢崎健太(鍼灸師), 星川秀利, 里大輔, 宮村司, 吉田早織
福岡大学 スポーツ科学部 向野義人
福岡大学病院 向野義人

大学陸上選手を対象に非侵襲性微細突起の皮膚刺激ツールを貼付するセルフケアを実施し, 自覚的な疲労状況等の影響について検討したので報告する.

8. 学童期における運動機能と怪我との関係性

やまだ整形外科・リハビリクリニック ○篠原崇志(理学療法士), 安藤正和, 米倉伸樹, 宮原鉄,
平岡洋樹, 山本将起, 森田瑞乃, 山田兼吾

今回, 北名古屋市の某中学校生徒の計363名にアンケート調査を実施し, 体力テストのデータと比較検討し, 運動機能と怪我との関係性について一つの結果が得られたため, ここに報告する.

9. 柔道初心者と有段者における後ろ受身動作の2次元動作解析

特定医療法人米田病院 リハビリテーション科 ○島大輔(柔道整復師)
学校法人米田学園 米田柔整専門学校 堀田篤, 吉田剛章

柔道において頭頸部外傷を予防する手段として受身動作は重要である. そこで今回, 受身動作の基本である後ろ受身動作について柔道初心者と有段者を対象に2次元動作解析を行ったので報告する.

10. 当院における発育期腰椎分離症の早期・超早期例に対する スポーツ復帰状況について

特定医療法人米田病院 リハビリテーション科 ○伊藤雅流(理学療法士),片桐幸秀,光岡 晃,藤田秀和
特定医療法人米田病院 整形外科 米田 實,福山陽子
特定医療法人米田病院 放射線科 山口 永,中島幸治,角谷法彦

当院を受診した発育期腰椎分離症患者の内,早期・超早期例に対してMRI・CT・臨床所見を元に初診時・経過診察時に段階的にスポーツ復帰を許可した。そこから見えてきたことを報告する。

11. 現役大学ラグビー選手のバーナー症候群の後遺症と 既往歴の有無によってみられる身体的特性

まつした整形外科 ○杉山康太(理学療法士)
中部大学 生命健康科学部理学療法学科 宮下浩二

バーナー症候群を受傷しても医療機関を受診せずに,プレイを継続するラグビー選手は少なくない。今回,ラグビーの現場で,バーナー症候群の既往がある選手の後遺症及び身体的特性について調査したので報告する。

12. 陳旧性アキレス腱断裂および再断裂に対し 自家ハムストリング腱を用いて再腱術を施行した3例の治療経験

鈴鹿回生病院 整形外科 ○千賀佳幸(医師),福田亜紀,中空繁登,加藤 公
三重大学医学部 スポーツ整形外科 西村明展
三重大学医学部 整形外科 西村明展

陳旧性アキレス腱断裂および再断裂では癒痕組織の介在や軟部組織の短縮により端端縫合が難しく, Augmentationが必要になることが多い。自家ハムストリング腱を用いて再腱術を施行した3症例を経験したので報告する。

13. 遺残性 Osgood-Schlatter 病を伴う膝蓋腱・ACL 同時断裂の1例

磐田市立総合病院 整形外科 ○今田貴章(医師),猿川潤一郎,大石崇人,渡邊 悠,井出浩一郎,
岡林 諒,山崎 薫

29歳男性。ラグビーの試合中に膝を捻り遺残性 Osgood-Schlatter を伴う膝蓋腱と ACL 同時断裂を生じた。膝蓋腱修復と ACL 再建術を施行し,術後6年で膝不安定感なくラグビーを継続している。

14. 高校球児に発生した足舟状骨離断性骨軟骨炎の1例

名鉄病院 関節鏡・スポーツ整形外科センター ○土屋篤志(医師)
名鉄病院 整形外科 長谷川一行,貝沼慎吾
名古屋市立大学病院 リハビリテーション医学分野 和田郁夫

症例は16歳高校球児。5か月前から右足部痛が持続。画像所見から足舟状骨離断性骨軟骨炎と診断。透視下に経皮的にドリリング施行。8週間の免荷後,足底板を使用し,徐々に野球復帰。術後2年の現在経過良好である。

15. インステップキック時の足関節後方部痛に対し 前方関節包の伸張性改善が効果的だった一症例

平針かとう整形外科 ○上川慎太郎(理学療法士), 岡西尚人, 加藤哲弘

症例はサッカークラブ所属の中学生である。三角骨はなく底屈制限を認めた。前方組織の拘縮により底屈時の距骨前方移動が制限され、後方関節包や脂肪体のインピンジメントを惹起したと考えた。

16. 高校サッカー選手の足部内反捻挫後の足部機能について

医療法人蜂友会はちや整形外科病院 リハビリテーション部 ○藤本哲也(理学療法士), 山本智美,
石原敏雄, 佐藤吉紀

医療法人蜂友会はちや整形外科病院 村松孝一

高校男子サッカー部員5名を対象に足関節内反捻挫後の受傷足と非受傷足での片脚立位バランス等の比較検討を行った。結果、片脚立位バランスの左右方向(X軸)での最大振幅、軌跡長で有意差が見られた。

17. Osgood-Schlatter 病(以下 OSD) を呈する 患者におけるジャンプ動作の検討

はなみずき整形外科スポーツクリニック リハビリテーション科 ○林 昌輝(理学療法士), 安井健人,
内海匡裕, 吉本匡志, 永瀬幸美,
唐澤貴代, 長谷川圭
はなみずき整形外科スポーツクリニック 西森康浩

Osgood-Schlatter 病(以下 OSD) を呈する患者は、ジャンプ動作などで動的なアライメント不良になる事が多い。そこで、正常群と OSD 群のジャンプ動作を三次元動作解析装置にて比較検討した。

18. 膝前十字靭帯再建術後における片脚垂直跳びテストを用いた筋力推定式の有用性

やまが整形外科 リハビリテーション科 ○小杉 峻(理学療法士), 桑坪憲史, 河野公昭,
村橋喜代久, 村橋淳一, 勇島 要, 田口 毅,
野田英伯, 渡邊和樹, 鈴木実緒

やまが整形外科 山賀 寛, 山賀 篤

国際医療福祉大学 成田保健医療学部理学療法学科 河野健一

先行研究では、膝前十字靭帯再建術後の膝伸展筋力と片脚垂直跳び高に有意な相関関係が認められた。今回、抽出した筋力推定式の有用性についてさらに検討した結果、若干の知見が得られたため報告する。

19. 股関節肢位の違いによるジャンプ動作への影響について ～体幹運動の比較検討～

公益財団法人スポーツ医・科学研究所 ○岡村幸枝(理学療法士), 金村朋直, 岡戸敦男, 熊澤雅樹
日本福祉大学 健康科学部 小林寛和, 尾崎杏奈

我々は先行研究において、股関節内旋位による体幹伸展運動時の腰椎-骨盤リズムの変化について報告した。今回、ジャンプ動作での股関節肢位の違いによる体幹運動の変化について分析したので報告する。

20. 体幹長軸方向への圧負荷と股関節屈曲筋力との関係

医療法人承継会井戸田整形外科名駅スポーツクリニック ○ 墨田智紀 (理学療法士), 平野佳代子,
大浦徹男, 亀山 泰
医療法人承継会びわじま整形外科 井戸田仁
日本福祉大学 小林寛和

動作時に下肢が効率よく筋力発揮をするには, 体幹機能が重要であり, パフォーマンスやスポーツ外傷の発生に影響することが多い. 今回, 体幹長軸方向への圧負荷と, 股関節屈曲筋力との関係を検討したので報告する.

21. 大腿骨寛骨臼インピンジメント患者における胸郭・腰椎可撓性や骨盤可動性

浜松医科大学医学部附属病院 リハビリテーション部 ○ 高柳勇太 (理学療法士), 美津島隆
浜松医科大学医学部附属病院 整形外科 星野裕信, 小山博史, 錦野匠一, 松山幸弘

大腿骨寛骨臼インピンジメント (femoroacetabular impingement :FAI) の患者は胸郭・腰椎可撓性や骨盤可動性が不良なことを経験する. 今回 FAI により生じた股関節痛患者における胸郭や腰椎, 骨盤可動性について正常群と比較・検討したので報告する.

22. スポーツクリニックにおける鼠径周辺部痛の発生状況

静岡みらいスポーツ・整形外科 ○ 杉山貴哉 (理学療法士), 杉山貴生, 小口智加, 三宅秀俊, 石川徹也

当院における 2015 年 4 月から 2016 年 10 月までの鼠径周辺部痛の発生状況について原因疾患や受傷機転の有無, 競技別発生頻度等を調査し, 発生機序やスポーツ動作との関係について検討したので報告する.

特別講演 I

アスリートに対する単径部痛／股関節痛の診断と治療 —股関節鏡手術は本当に必要か?—

東京医科大学 整形外科学分野 助教

山藤 崇先生

2014年、第一回 World Conference on groin pain in athletes がドーハにて開催され、アスリートの単径部痛は内転筋関連、腸腰筋関連、単径部関連、恥骨関連の新たな疾患概念に分類され、股関節関連単径部痛もその分類に組み込まれた。単径部痛の治療には股関節の機能評価が必要であり、治療として股関節周囲機能を改善することが求められる。また、Ganz らが Femoroacetabular impingement (以下 FAI) の概念を提唱し、FAI がアスリートの股関節関連単径部痛の原因となり、FAI の骨形態異常とインピンジメントによっておこる関節唇損傷を低侵襲で治療できる股関節鏡手術の有用性に注目が集まっている。今回、アスリートの単径部痛／股関節痛の診断と治療について世界的な見解を解説するとともに、アスリートに対する股関節鏡手術の有用性を股関節機能改善の観点を中心に検討したので報告する。

特別講演 II

ハイパフォーマンスと傷害予防の両立

法政大学 経済学部 教授

杉本龍勇先生

競技スポーツのトレーニングはハイパフォーマンスを引き出し、常に自身の限界を押し上げていく必要がある。そのため様々な傷害を引き起こす可能性も高まり、よって傷害予防に対する管理は非常に厳密に行わなければならない。

傷害が発生する際には、動作のバランスが崩れていることが多々見受けられる。また動作の崩れによってトレーニング負荷がアンバランスとなり、傷害を起こすリスクは更に高まる。こうした点から、動作に対する理解を深めることは指導者並びにサポートスタッフにとって不可欠である。これを理解することはトレーニング負荷を最適にコントロールし、傷害を予防しながらハイパフォーマンスを導くことにつながる。また傷害を起こした際にも、早期の原因解明並びに復帰プロセスの効率化を可能にする。

そこでここでは、トレーニング現場の実証的な例を踏まえながらハイパフォーマンスと傷害予防を両立するトレーニングのコンセプトと動作要素について説明をする。

受講者には以下の単位が認められます。

- 日本整形外科学会教育研修会認定単位：1単位
 - ・ 整形外科専門医資格継続
 - 必須科目 02：外傷性疾患（スポーツ障害を含む）
 - 11：骨盤・股関節疾患
 - ・ スポーツ医資格継続
- 日本医師会認定健康スポーツ医資格継続単位：1単位
- 日本医師会生涯教育単位：1単位
 - カリキュラムコード 57：外傷
 - 61：関節痛

！！大切なお知らせ！！

平成27年1月1日より、教育研修会単位取得が完全デジタル化されます。

研修会を受講される方へ

IC会員カードが必要になりますので、必ずご持参ください。

(平成25年4月に全会員に発行済です)

現在、カードがお手元がない方は日整会事務局
までお問い合わせください。(03-3816-3671)

必須分野番号の選択について

単位の必須分野番号を、研修会当日に選択することはできません。

後日、会員専用ページ内の「単位振替システム」を利用して、
ご自身で、ご希望の必須分野番号への振替をお願い致します。

<IC会員カード見本>



顧問：三浦隆行、岩田 久、内田淳正、蟹江良一、清水克時、藤澤幸三、須川 勲、
喜久生明男、本庄宏司、横江清司、米田 寛

幹事：(五十音順)

岩堀裕介 (愛知医科大学 整形外科)
加藤 公 (鈴鹿回生病院)
亀山 泰 (井戸田整形外科名駅スポーツクリニック)
河野公昭 (やまが整形外科)
後藤英之 (名古屋市立大学 整形外科)
小林寛和 (日本福祉大学)
小林正明 (名古屋市立大学 整形外科)
小林良充 (聖隷浜松病院 スポーツ整形外科)
小山博史 (浜松医科大学 整形外科)
近藤精司 (至学館大学短期大学部)
清水卓也 (中京大学保健センター)

杉本勝正 (名古屋スポーツクリニック)
高橋正哲 (十全記念病院 整形外科)
土屋篤志 (名鉄病院 関節鏡・スポーツ整形外科センター)
寺林伸夫 (岐阜大学医学部 整形外科)
早川克彦 (愛光整形外科)
福田 雅 (松波総合病院 整形外科)
福田亜紀 (鈴鹿回生病院 整形外科)
宮村 司 (常葉大学 健康プロデュース学部)
山賀 寛 (やまが整形外科)
山路倫生 (阿由知通山路整形外科)
山田光子 (坂文種報徳會病院 整形外科)

共催：東海スポーツ傷害研究会
三笠製薬株式会社

経皮吸収型鎮痛・消炎剤

薬価基準収載

スミルスチック3%

フェルビナク固形軟膏

薬価基準収載

スミルローション3%

フェルビナクローション

薬価基準収載

スミルテープ^{35mg・70mg}

フェルビナクテープ剤

薬価基準収載

スミル外用ポンプスプレー3%

フェルビナク外用ポンプスプレー



製造販売元

[資料請求先]

三笠製薬株式会社

東京都練馬区豊玉北2-3-1

<http://www.mikasaseiyaku.co.jp>



JQA-QM92155 三笠製薬株式会社
JQA-EM93967 三笠製薬(株)工場

●「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。

三笠製薬



経皮吸収型鎮痛・消炎剤

薬価基準収載

ゼポラス[®]テープ[®] 20mg

ゼポラス[®]テープ[®] 40mg

ZEPOLAS[®] TAPE 20mg・40mg フルルビプロフェンテープ剤



製造販売元

〔資料請求先〕

三笠製薬株式会社

〒176-8585

東京都練馬区豊玉北2-3-1

<http://www.mikasaseiyaku.co.jp/>



QA4009335 三笠製薬株式会社
QA4009387 三笠製薬㈱工場

●「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。

2016年2月作成